

ゴリラにより豊かで幸せな日々を届けるためクラウドファンディングを立ち上げます！
～未来へ紡ぐゴリラプロジェクト 動物福祉の向上と学術的知見を活かす～

千葉市動物公園では、ゴリラの飼育環境を改善し、動物福祉の向上を図るとともに、種の保存に資する学術的知見の獲得を目的に検証を実施するため、クラウドファンディングを実施しますので、お知らせします。

1 国内のゴリラ飼育の現状

ゴリラは、当園をはじめ世界中の動物園の人気種であり、当園のシンボルマークにも採用されています。ゴリラは、現在国内で6園館20頭が飼育されており、そのうち国内最多の6頭が当園に帰属しています。また、野生下におけるゴリラは絶滅危惧種であり、当園は日本で飼育するゴリラの繁殖においての責任を果たしていく立場にあります。



2 クラウドファンディングについて

(1) 目的

このクラウドファンディングでは、ゴリラの飼育展示環境を生息環境に近づけ、野生本来の行動を引き出すとともに、各種エンリッチメントを実施し、その効果を学術的に検証することでゴリラの保全に貢献していくことを目的として実施します。

(2) 実施期間

令和6年5月13日（月）9：00～7月16日（火）23：00

(3) クラウドファンディングのご支援により実現したいこと

ア 展示場を生息環境に近づけ、野生本来の生態を引き出す取り組み（第1目標）

3mほどの高さで大小16種類の植物を展示場へ植樹します。野生のゴリラが採食するショウガ科の植物などを含むことで、ゴリラの行動変容を学術的に検証し、今後の展示場の改善に活かします。



植樹前展示場



植樹後展示場（イメージ）

イ 種の保存のための学術的知見の獲得を目的とした取り組み（第2目標）

教育研究機関等と連携し、採食や認知に関する環境エンリッチメントを実施し、その効果を学術的に検証することで、知見の獲得を目指し、種の保存へ貢献します。

(ア) 採食エンリッチメントの学術的検証

多様な食性をもつゴリラの摂取傾向や栄養価に関する分析・研究を行います。検証結果を公開し、当園だけでなく飼育下のゴリラの生態解明と飼育技術の獲得を目指します。

(イ) 認知エンリッチメントの充実と学術的検証

動物の認知能力を引き出す工夫を「認知エンリッチメント」と言います。今回のプロジェクトでは、千葉大学と連携し、例えば様々な図柄のカードを使い、ゴリラの趣向性や認知力を引き出す取り組みなどを行い、その効果を学術的に検証します。

(ウ) 空間エンリッチメントの充実と学術的検証

日本の過酷な夏の暑さ対策として、2020年度から、木更津工業高等専門学校との共同研究で、人もゴリラも快適に過ごせる空間の実現を目指し、IoTを活用したミストを設置し、展示場内の気象計測やゴリラの行動モニタリングなどの試行を繰り返してきました。今回のプロジェクトでは、これまでの共同研究の成果を踏まえ、IoTを活用したミストの実装を行い、酷暑の中であっても、快適な屋外展示環境の提供を目指し、その効果を学術的に検証します。

(4) 目標金額

第1目標額 1,050万円

(野生のゴリラが採食するショウガ科を含む植樹を実現するための費用)

第2目標額 1,900万円（最終目標）

(第1目標の植樹実現に加え、学術的検証に必要なモニタリングカメラやミスト装置設置等を実現するための費用)

(5) リターン（返礼品）について

- ・ゴリラを描く画家・阿部知暉氏の「モンタ油彩ポスター」と直筆イラスト入りサイン色紙セットなど、本クラウドファンディング限定のグッズ
- ・フェアトレードコーヒー等のゴリラ生息地を援助する商品
- ・これまで一般の方には公開したことがないバックヤードのエリアでゴリラに至近距離で会うことができるガイドツアーなどの体験コース など

(6) クラウドファンディングのご支援方法等

5月13日（月）9：00にクラウドファンディング特設サイトがオープンします。
ご支援方法、リターンの品などは特設サイトをご確認ください。

※特設サイト

【URL】<https://readyfor.jp/projects/Chiba-Gorilla-Project>

(7) クラウドファンディング運営体制

この取り組みは、“amazonほしい物リスト”や“クラウドファンディング「屠体給餌プロジェクト」”と同様に、千葉市動物公園の運営管理者である千葉市と、園内民間事業者とで編成される実行委員会（千葉市動物公園アドバンスト会議）で運営を行います。



<参考>ニシゴリラについて

(英名 : Western Gorilla 学名 : *Gorilla gorilla*)

(1) 保護状況

レッドリスト 絶滅危惧 I A類 (C R)

※ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

ワシントン条約附属書 I

(2) 特徴

- ・とても警戒心が強く、神経質だが平和主義な動物である。
- ・全体的に黒っぽいが、成人のオスは「シルバーバック」として知られている。
- ・資源を目的とした環境破壊、様々な理由による人同士の争い、仕事のために森を切り開く原住民、森に人が入ることによる感染症の伝播、密猟や食糧目的の乱獲等により、ニシゴリラは絶滅の危機にある。

(3) 生態

- ・果実・植物食傾向が強い。(まれにアリを食べる)
- ・1頭のシルバーバックと、多数の成人メスとその仔たちで構成され、5～15頭ほどの群れをつくる。
- ・昼夜を問わず地面や木の上にクッションとなる枝や葉で寝所を作る。

(4) 分布

アフリカの熱帯雨林

(カメルーン海岸近くの西低地から中央アフリカ共和国、赤道ギニア、ガボン、

ナイジェリア、コンゴ共和国、アンゴラ、コンゴ民主共和国)

(5) 国内のゴリラ飼育の状況

※日本動物園水族館協会資料 (2024年2月末日現在)

| 飼育園館 | 飼育頭数 | | |
|------------|-------------------|--|------|
| 上野動物園 | 雄 2頭 雌 5頭 計 7頭 | | |
| 浜松市動物園 | 雄 1頭 | | 計 1頭 |
| 名古屋市東山動物園 | 雄 2頭 雌 3頭 計 5頭 | | |
| 京都市動物園 | 雄 3頭 雌 1頭 計 4頭 | | |
| 日本モンキーセンター | 雄 1頭 | | 計 1頭 |
| 千葉市動物公園 | 雄 1頭 雌 1頭 計 2頭 | | |
| 合計 | 雄 10頭 雌 10頭 計 20頭 | | |